

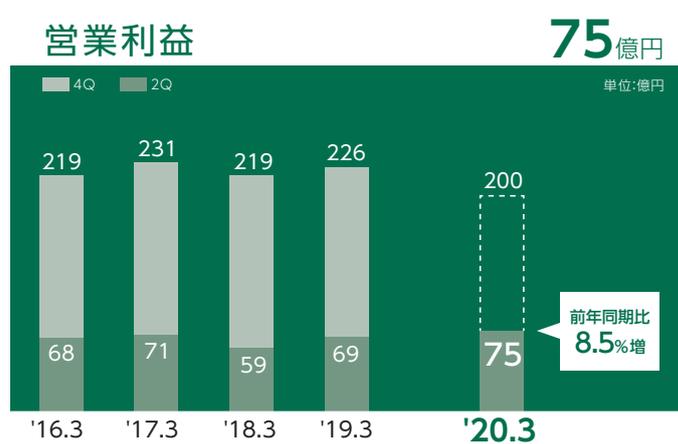
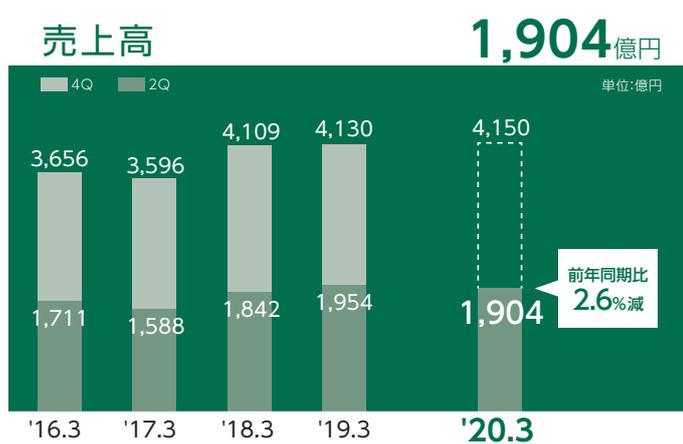
株主のみなさまへ

第16期 第2四半期 決算のご報告

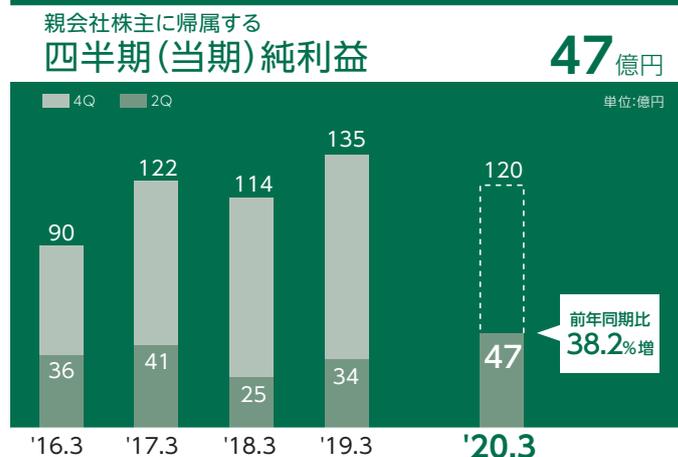
2019年4月1日から9月30日まで

証券コード:6674

連結業績ハイライト



のれん等償却前営業利益
(2020年3月期2Q) **86** 億円 (前年同期比5.3%増)



のれん等償却前親会社株主に
帰属する四半期純利益
(2020年3月期2Q) **59** 億円 (前年同期比24.0%増)

通期業績予想につきましては、海外で販売減少が見込まれることや足元において原材料価格が上昇傾向にあることなど先行きが不透明なことから、2019年10月29日に修正を行い、適時開示しています。

TOP MESSAGE

主として自動車電池事業における鉛価格の下落に伴う販売価格の低下や円高の影響などにより減収となりましたが、電源装置の販売が好調に推移したことや上記原材料価格の下落の影響などにより増益となりました。

平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに第16期第2四半期(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の業績や取り組みについて、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国においては雇用および所得環境が良好であり個人消費は堅調に推移しましたが、中国は米国との通商問題などを背景に景気は減速傾向となりました。また、欧州においては雇用環境が改善傾向にあり個人消費は堅調に推移したものの、Brexitをめぐる先行き不透明な状況が依然として続いています。一方、わが国経済は、雇用や所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が継続したものの、世界経済の減速懸念から景気の先行きは不透明な状況にあります。

このような経済状況の中、当社グループでは、主として自動車電池事業における鉛価格の下落に伴う販売価格の低下や円高の影響などにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,904億14百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて50億円減少(△2.6%)しました。一方、営業利益は、電源装置の販売が好調に推移したことに加え鉛価格の下落の影響などにより75億49百万円(のれん等償却前営業利益は86億78百万円)と前第2四半期連結累計期間に比べて5億92百万円増加(8.5%)し、経常利益も84億24百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて9億32百万円増加(12.4%)しました。これに伴い親会社株主に帰属する四半期純利益も、47億74百万円(のれん等償却前親会社株主に帰属する四半期純利益は59億2百万円)と前第2四半期連結累計期間に比べて13億19百万円増加(38.2%)しました。



代表取締役
取締役社長

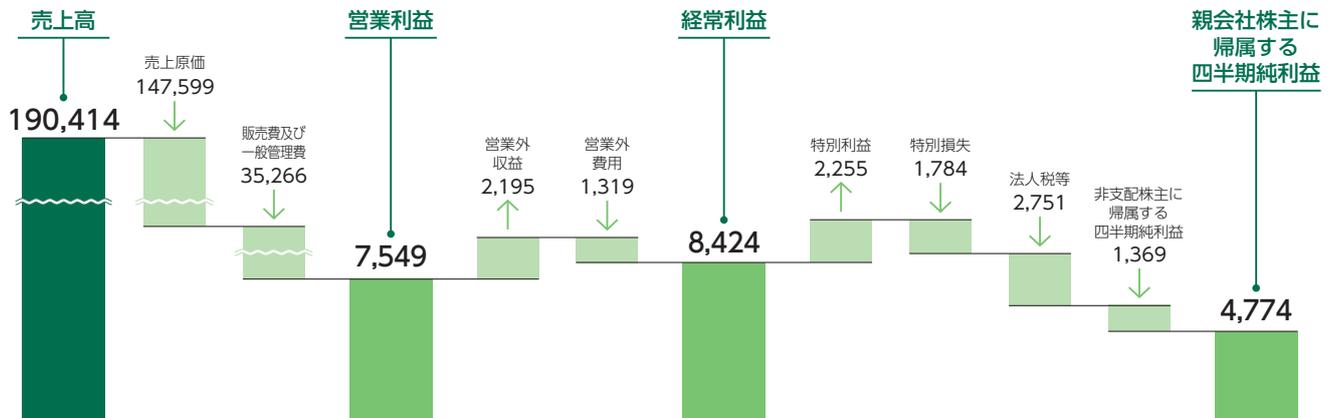
村尾 修

連結損益計算書

[当第2四半期(累計)]

(2019年4月1日~9月30日)

(百万円)

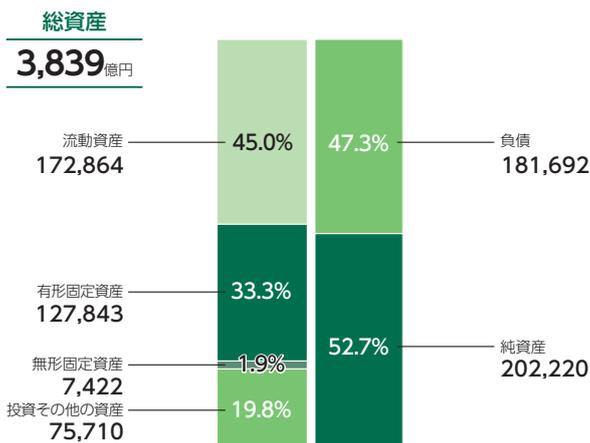


連結貸借対照表

[当第2四半期末]

(2019年9月30日)

(百万円)

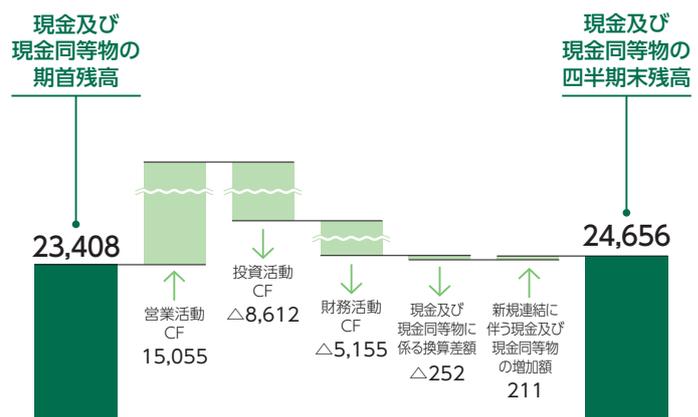


連結キャッシュ・フロー計算書

[当第2四半期(累計)]

(2019年4月1日~9月30日)

(百万円)

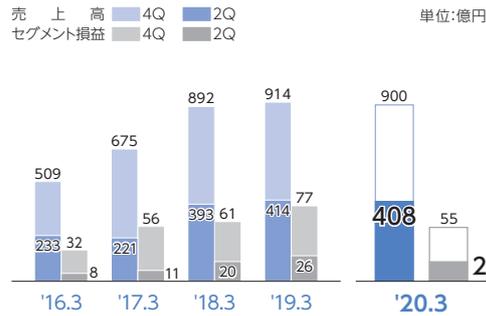


[セグメント別連結業績]



売上高
408億円

構成比
21.5%



売上高 前年同期比 **1.3%減**

新車用および補修用の販売数量はともに堅調に推移したものの鉛価格の下落に伴う販売価格の低下の影響により減少。

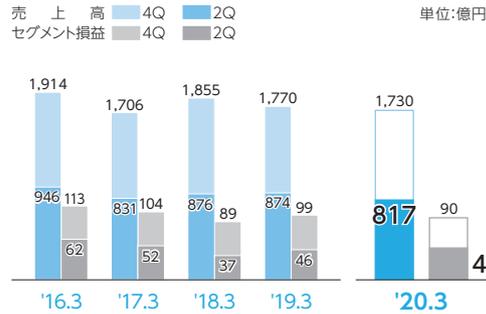
セグメント損益 前年同期比 **21.8%減**

鉛価格の下落に伴う販売価格の低下や経費増加により減少。



売上高
817億円

構成比
42.9%



売上高 前年同期比 **6.6%減**

中国において市況悪化に伴い厳しい状況が続いたことや円高の影響などにより減少。

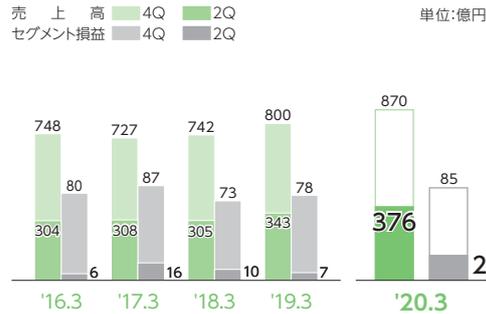
セグメント損益 前年同期比 **5.4%増**

売上高は減少したものの、鉛価格の下落の影響などにより増加。



売上高
376億円

構成比
19.8%



売上高 前年同期比 **9.5%増**

主として電源装置の販売が好調に推移したことにより増加。

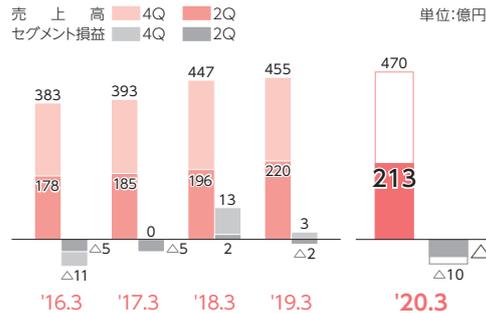
セグメント損益 前年同期比 **207.3%増**

売上高増加の影響に加え、鉛価格の下落の影響などにより増加。



売上高
213億円

構成比
11.2%



売上高 前年同期比 **2.8%減**

主として電気自動車用リチウムイオン電池の販売が減少したことにより減少。

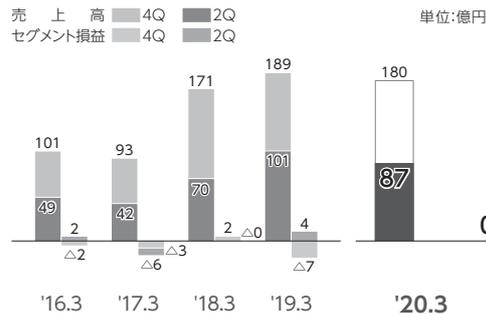
セグメント損益 前年同期比 **—**

売上高減少の影響に加えて12Vリチウムイオン電池事業立上げに伴う費用増加により悪化。



売上高
87億円

構成比
4.6%



売上高 前年同期比 **13.4%減**

前年同様に比べて減少。

セグメント損益 前年同期比 **79.8%減**

売上高減少の影響などにより減少。

(注)1 セグメント損益はのれん等償却前営業利益です。

(注)2 「自動車電池事業(海外)」には従来より取り扱う海外産業用電池の取引高の一部を含んでいましたが、2019年3月期より、「産業電池電源事業」に変更しています。2018年3月期のセグメント情報は、変更後の業績を記載しています。

(注)3 2020年3月期より、従来「自動車電池事業(海外)」に含まれていた一部の連結子会社等について、「産業電池電源事業」にセグメントを変更しています。2019年3月期のセグメント情報は、変更後の業績を記載しています。

当社グループの新しいコーポレートスローガン「Creating the Future of Energy」を制定し、2019年10月1日からグローバルに展開しています。

エネルギーのあり方・使われ方が、時代とともに変化していく世の中において、GSユアサは100年以上前から蓄電技術で社会に貢献してきました。

新コーポレートスローガン「Creating the Future of Energy」

は、当社が創業以来続けてきた“社会のためにエネルギーの新たなカタチを模索する姿勢”を継承し、これからも、変化する時代のニーズ・世の中の声に耳を傾けながら新しいエネルギーのあり方・蓄電技術の使い方を模索し、未来に新たな価値を創造し続けるという決意を宣言するものです。

GSユアサは、これからも電池を核とした新しい価値創造を通じて、事業と社会の持続可能な成長を目指していきます。

【コーポレートスローガン】

Creating the Future of Energy

【ロゴとの組み合わせ】



企業 理念

「革新と成長」

GS YUASAは、社員と企業の「革新と成長」を通じ、人と社会と地球環境に貢献します。

経営 ビジョン

GS YUASAは、電池で培った先進のエネルギー技術で世界のお客様へ快適さと安心をお届けします。

新 広 告 デ ザ イ ン

デザインのコンセプトは「電池を通してつくる未来」です。

新コーポレートスローガン「Creating the Future of Energy」のとおり、革新的な蓄電技術を創造し続けることで、これからも持続可能な社会へ貢献していく、という思いを込めています。

少年の向かう先にある未来では、電池によって有効活用された

安心・安全なエネルギーが、人々の快適な生活を支えています。

GSユアサの製品は現在も多くの分野で活躍していますが、これまでの電池という概念にとらわれず、新たな価値の提供で社会に貢献する未来を描いています。

海外での使用も視野に入れたグローバルなデザインが特徴です。



ロケット画像 ©JAXA

電池の技術革新で社会に貢献してきた、GSユアサ。これからも革新的な蓄電技術で、人類の可能性と夢を届け、持続可能な世界をつくるための価値創造を続けます。

GS YUASA
Creating the Future of Energy

株式会社 GSユアサ
www.gs-yuasa.com/

TOPICS

TOPICS 1

「次世代航空機」実用化プロジェクトへ参画

次世代航空機実現に向けた軽量蓄電池の開発を開始

2019年8月、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) が推進する「航空機用先進システム実用化プロジェクト」への参画が決定しました。

同プロジェクトは、次世代航空機のための、より安全で軽量、低コストな航空機用先進システムの開発を目的とし、新たなエンジンシステムや自動飛行システム、コックピットディスプレイなど8つの研究開発項目から構成されています。

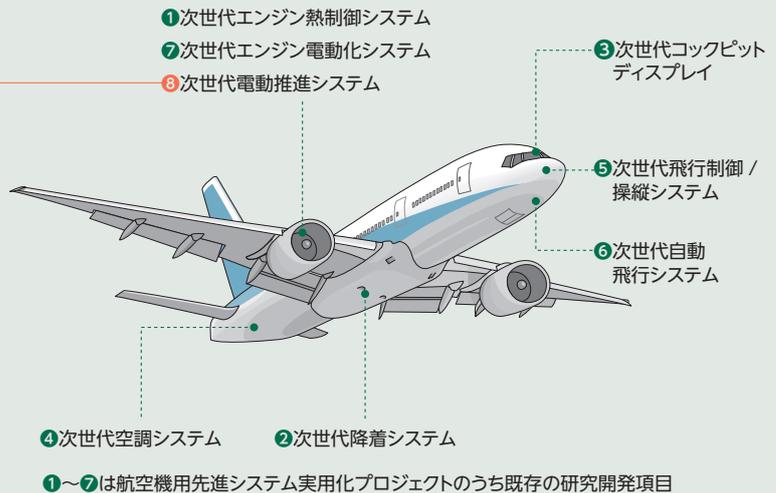
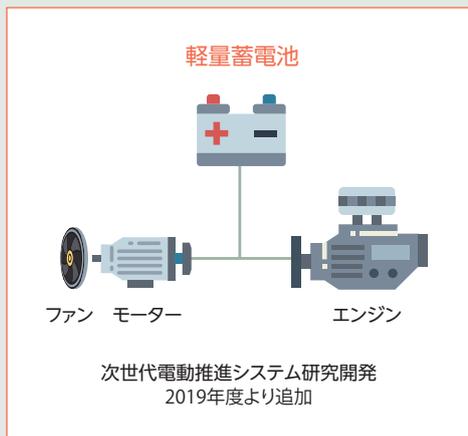
その中の一つである「次世代電動推進システム研究開発」のうち、「軽量蓄電池」に関する研究開発を当社が受託しました。次世代航空機に適した高いエネルギー密度を持つ軽量蓄電池

の開発に取り組んでいきます。

同蓄電池の実現のカギとなる「硫黄正極」の開発については、関西大学の石川正司教授に再委託します。石川教授は「硫黄正極」研究の第一人者であり、最先端である研究機関との連携が、より高品質な「軽量蓄電池」の開発につながると考えています。

当社は航空分野だけでなく宇宙など過酷な分野においての採用実績もあり、豊富な実績と高い技術を活かして、次世代航空機の実現に貢献していきます。

航空機用先進システム実用化プロジェクトの概要



TOPICS 2

「第11回 GSユアサ 小学生 ECO絵画コンクール」を開催

家族みんなで環境について考える絵画コンクールを開催!

2019年10月1日から2020年1月15日の期間に「第11回 GSユアサ 小学生 ECO絵画コンクール」を開催します。

お子様とご家族が一緒になって、環境とは何かを考えていただくきっかけとなることを願い、「みて!ぼくわたしのまわりのしぜん」をテーマに、小学生のお子様を対象に、「自然」を題材として描かれた絵画作品を募集します。

ご応募いただいた作品の中から厳正な審査により、環境大臣賞、金賞、銀賞、銅賞、団体賞の各賞を選出します。

当社はこのようなCSR活動を通し、環境に配慮した社会の形成に貢献していきます。

※当社は財団法人屋久島環境文化財団の活動に協賛しています。

詳細は <https://gyb.gs-yuasa.com/special/concours/pc/>



第10回 金賞
「家族でドキドキ海の中」



第10回 環境大臣賞
「森のこえが聞こえるよ」



(株)ジーエス・ユアサ バッテリー
エコキャラクター
もりねずみの「しげるくん」

会社概要 (2019年9月30日現在)

商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (GS Yuasa Corporation)
事業目的	電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	2004年4月1日
資本金	33,021百万円
本社所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話(075)312-1211
ホームページアドレス	https://www.gs-yuasa.com/jp
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場 第1部

役員 (2019年9月30日現在)

〔株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション(純粋持株会社)〕

代表取締役 取締役社長	村 尾 修
代表取締役 取締役副社長	西 田 啓
専務取締役	中 川 敏 幸
常務取締役	倉 垣 雅 英
取締役	古 川 明 男
社外取締役	大 谷 郁 夫
社外取締役	松 永 隆 善
社外監査役(常勤)	大 原 克 哉
監査役(常勤)	山 田 秀 明
監査役(常勤)	村 上 真 之
社外監査役(非常勤)	藤 井 司

〔株式会社 GSユアサ(事業子会社)〕

代表取締役 取締役社長	村 尾 修
代表取締役 取締役副社長	西 田 啓
専務取締役	中 川 敏 幸
常務取締役	倉 垣 雅 英
常務取締役	沢 田 勝 一
取締役	奥 山 良 一
取締役	吉 田 浩 明
取締役	山 口 義 彰
取締役	古 川 明 男
取締役	中 川 正 也
社外監査役(常勤)	大 原 克 哉
監査役(常勤)	山 田 秀 明
監査役(常勤)	村 上 真 之
社外監査役(非常勤)	桑 名 康 夫

株主インフォメーション

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について ※ 確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

配当金お支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収額の計算は証券会社等にて行なわれます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

なお、配当金領収書にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金お支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

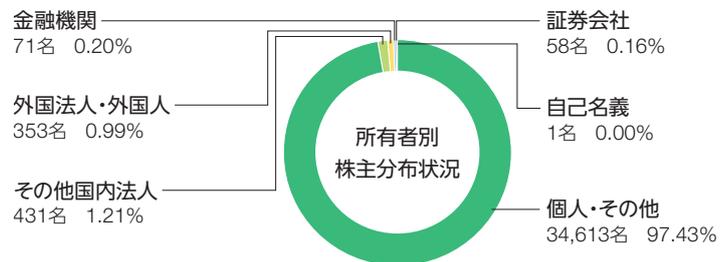
(注)1 本報告書に記載の金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入しております。
(注)2 本報告書に含まれている将来予測等は作成日現在において入手可能な情報に基づくものであり、今後様々な要因によって予測等と異なる結果となる可能性があります。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会および期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) [受付時間 9:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)]
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/)に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数	発行済株式総数	株主数
280,000,000株	82,714,942株	35,527名



●大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	7,923,100	9.76
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	4,490,549	5.53
明治安田生命保険(相)	2,800,000	3.45
トヨタ自動車(株)	2,236,080	2.75
(株)三菱UFJ銀行	1,865,467	2.30
日本生命保険(相)	1,789,133	2.20
(株)京都銀行	1,548,069	1.91
ビービーエイチ グローバル エックス リチウム アンド バッテリー テック イーティーエフ	1,513,418	1.86
三井住友信託銀行(株)	1,470,800	1.81
(株)三井住友銀行	1,421,703	1.75

※出資比率は、発行済株式総数から自己株式数を減じた株式数(81,178,746株)を基準に算出しています。

IRサイトで情報を発信しています。



当社のIRサイトでは、チャートジェネレーターや個人投資家の皆様へ向けたページにて、株主・投資家様の視点に立ち、GSユアサの概況や取り組みをお伝えできるようにしています。ぜひご覧ください。



<https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/>